

THE RECORD

RIAJ 社団法人 日本レコード協会

平成7年2月1日発行

RECORDING INDUSTRY ASSOCIATION OF JAPAN

〒104 東京都中央区築地2-8-9 Tel (3541) 4411(代)

平成7年2月号 No. 423

平成七年新年会開催

年が明けて、去る一月六日(金)、恒例の日本レコード協会新年会が東京・永田町のキャピトル東急ホテル「真珠の間」において盛大に開催されました。

当日は、国会議員の方々を始め、関係諸官庁、マスコミ、関係団体、販売流通業界から多数の方々が、出席され、例年同様、一切のセレモニ



新年会会場風景

ーを省いて、賀詞交歓とご歓談の場として、和やかな一時をすごしました。

会員各社の出席者を含め、約五百七十名の方々が、一堂に会し、新年の挨拶を交わし合い、晴れやかな新年会となりました。

なお、来年、平成八年の新年会は一月八日(月)午後一時三十分より同じ会場で行われます。



受付風景

日本ゴールドディスク大賞授賞式、放映日の日程決まる

当協会主催の「日本ゴールドディスク大賞」は、本年第九回目を迎えますが、その授賞式が、3月3日(金)に東京・渋谷のNHKホールにおいて行われることになりました。昨年同様、邦楽洋楽それぞれに日本ゴールドディスク大賞、グランプリ・ニュー・アーティスト賞、グランプリ・シングル賞、グランプリ・アルバム賞などが授与されます。

尚、この授賞式の模様は、3月3日当日、NHK衛星第2放送で20時から22時15分まで放送され、その後NHK総合放送にて放送されること

が決定しています。また現在、日本ゴールドディスク大賞委員会審査部会で各賞の決定作業を進めています。



CD-R問題対策会議発足・活動開始

昨年12月5日、国内権利者6団体の代表者会議が開かれ、「CD-R問題対策会議」を正式に発足させました。既にプロジェクトによる「損害予測調査」等の活動は開始されています。組織の概要等は以下です。

- 1、会議の発足
平成6年12月5日
- 2、構成団体

JASRAC、芸団協、音事協
MPA、音制連、日本レコード協会

- 3、活動目的と組織名称

①活動目的

権利者団体として取り組むべき課題は多岐にわたるが、当面の緊急課題は「民生用CD-R問題」であり、従って「民生用CD-R問題の解決」を目的とする。また、法制整備問題、ニュー・テクノロジーに対する対応等、協議の中で発生することが予想される問題は、適宜プロジェクトを設ける等により積極的に取り組んで行く。

②組織名称

「CD-R問題対策会議」

- 4、運営組織と活動内容

①運営組織と活動内容

・「代表者会議」「連絡者会議」及び「損害予測調査プロジェクト」
・「現行制度研究プロジェクト」を設置する。
・「代表者会議」は各団体で代表1名を選任し、6名により構成し、決定機関とする。
・「連絡者会議」は各団体の事務局長（または準ずる者）1名、合計6名により構成し、運営機関とする。
・「損害予測調査プロジェクト」は、現在の私的録音の実態及び、民生用CD-Rの発売により増大すると予想される私的複製行為による損害、権利者に及ぼす影響などを予測調査し、権利保護を訴えていく基礎資料を作成する。各団体より1〜2名を選任し構成するが、日本レコード協会内に既に同様のプロジェクトが発足しており、そのメンバーを加えた構成とする。
・「現行制度研究プロジェクト」は、民生用CD-Rの商品化に伴い、現行制度（私的録音補償金制度、著作権法30条等）の評価、権利者としての考え方の整合性、今後の制度に対する取り組み等を研究する。各団体より1〜2名を選任し

構成する。

②組織の構成メンバー

〈代表者会議〉

なかにし 理事長（JASRAC）
小泉博 専務理事（芸団協）
田邊昭知 理事長（音事協）
渡邊美佐 理事長（MPA）
細川健 理事長（音制連）
松尾修吾 会長（レコード協会）
〈連絡者会議〉
中村凱夫 理事（JASRAC）
棚野正士 理事（芸団協）
木原淑朗 専務理事（音事協）
秋山貴透 事務局長（MPA）
上野博 理事（音制連）
木村三郎 常務理事（レコード協会）

以上の概要で活動を開始しましたが、これまでに発足の準備に向けて「連絡者会議」を3回開催し、またプロジェクトも「損害予測調査プロジェクト」が、田辺攻氏（当協会業務委員兼MCAヒクター）を幹事に、「現行制度研究プロジェクト」が、棚野正士氏（芸団協理事事務局長）を幹事に、それぞれ活動を開始しています。

著作隣接権等に関する審議会を新設

当協会は、業界共通の問題を調査研究し、その解決策を協議・推進す

ることを目的に、法制委員会、技術委員会など、幾つかの委員会を設けておりますが、近年の急速な技術の進歩、レコード利用の多様化、社会情勢の変化などによって、一委員会の専管事項とするには手に余る問題も生じてきております。これらの問題こそレコード産業の将来の方向を決定づける可能性があり、横断的に検討する機構の必要性が生じております。業界の将来を考慮した場合、レコード製作者の権利である著作隣接権の問題は、再重要問題であることは言を俟ちません。当協会理事会は、加盟社間に共通の認識を醸成し、隣接権を中心に、当業界に係る重要事項について審議する機関として、新たに「著作隣接権等に関する審議会」（仮）の設置を決めました。当審議会は、協会長の諮問機関として機能することになります。

なお、当初の委員は下記の理事の方々です。

また、設置期間は平成7年1月27日〜平成8年3月末日迄の予定です。

記

座長 伊地知副会長

出口副会長（法制委員長）

高野理事（技術委員長）

後藤理事（JASRAC委員長）

細川理事（二次使用料委員長）

1994年（1月～12月）のレコード生産実績の概況がまとまりました。

総生産数量（オーディオ、AV複合型、およびビデオの合計）は47,388万枚（巻）（前年比102%）、金額ベースでは6,715億円（前年比102%）となり、数量、金額とも微増の状況です。

オーディオレコードの中で主力のCDは、前年比100%（数量）102%（金額）と前年並の実績に止まりました。中でもアルバムは数量、金額共106%の前年比でしたが、シングルは数量、金額共、前年比90%の実績で、初めて前年実績を割り込むと同時に、ここ数年のシングル優勢の傾向に変化が見られました。洋邦別には、洋楽が前年比で117%（数量）117%（金額）に対し、邦楽は95%（数量）98%（金額）、と洋楽が著しく伸長し、邦楽は対照的に前年割れの実績となりました。

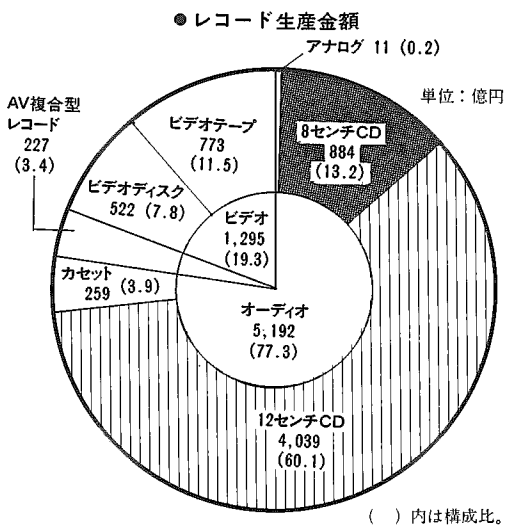
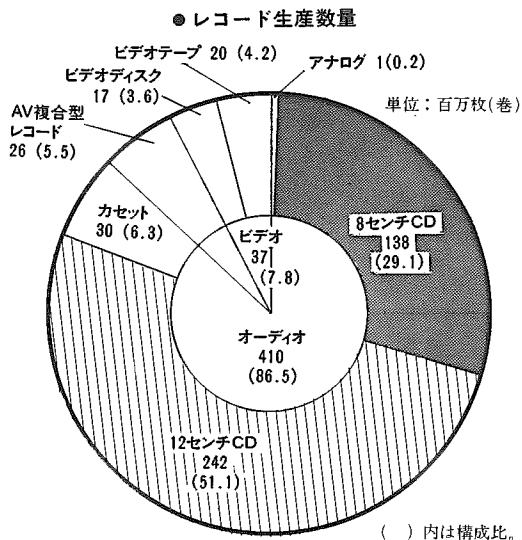
またミュージックテープは、6年連続して数量・金額ともに大きく減産し、アナログディスクも昨年に続き減産しました。

AV複合型レコード（CDグラフィクス、CD-I、CD-ROMなど）の生産は、数量は2,643万枚（前年比276%）、金額は227億円（前年比240%）となり、著しい伸長を示しました。

ビデオ・レコードの生産は、数量3,700万枚（巻）（前年比106%）、金額1,295億円（前年比97%）で、生産数量は伸びましたが、生産金額はマイナス成長となりました。

詳細は本誌7ページを御覧下さい。

1994年レコード生産実績



研修会場



第2回PL研修会
を開催

1月26日(木)、午後2時より銀座キャピタルホテル「ローズの間」において、昨年10月の第1回「PL研修会」に続き第2回目の「PL研修会」を実施致しました。

今回の研修では各社からPL関係の担当責任者が出席し「PL法と企業の対応」について研修を行い、後半は、7月1日の「PL法」施行にむけて苦情処理対応の基本的考え方についても協議を行いました。

ニューメディア・プロ ジェクト活動開始

「ニューメディア・プロジェクト」(委員長・高野理事)では、12月20日、第1回会議を開催し、今後の調査研究の進め方について協議を行いました。

この結果、デジタル伝送メディアによる「音楽供給システム」としては、ユーザーサービスとしての「店頭での試聴・検索システム」、廃盤・品切れなどによる販売機会の損失を補う「店頭複製システム」、各家庭を対象とした「ミュージック・オン・デマンド」など、多様なものが存在し、かつ、次々と新しいシステムが提案されつつある現状のため、これらシステムに個別に対応することは困難であることから、当プロジェクトとしては、可能な範囲内で各システムの実態を調査研究し、デジタル伝送メディアによる各種の「音楽供給システム」に対して、レコード産業としての様に対応すべきか、その基本スタンスを取り纏めることとなりました。

第2回会議(1月20日)では、N T T ヒューマンインタフェース研究所の開発担当者から、N T T 提案の「ミュージック・オン・デマンド」の概要について説明を聞き、種々意見

見を交換しました。

なお、次回会議(2月22日)は、「N T T 武蔵野研究開発センター」において、このシステムを具現化した「実験システム」を実際に見学し、掘り下げた討議を行うことにしています。

「音の日」制定記念 パーティー開催

去る平成6年12月6日、東京・虎ノ門・パストラルにおいて、「音の日」制定記念パーティーが開催されました。これは、既にお知らせしましたように、(社)日本オーディオ協会の主催により、(社)日本電子機械工業会、(社)日本記録メディア工業会、(社)日本音楽スタジオ協会、(社)日本P A 技術者協会(社)日本レコード協会が協賛して制定されたもので、エジソンによる蓄音機発明の日、12月6日を「音の日」とし、今後より多くの人に認識していただくために、毎年各種の事業を継続的に実施していくものです。当日は、マスコミ関係者、各団体関係者、音楽関係者など二百数十名が一同に会し、また「音の日」普及のためのシンボル・キャラクター「S O U N D Y」(アフリカ産、耳長キツネF E N N E C をデザイン化)が披露されるなど和やかな雰囲気で行

行しました。

また、同会場にて、「音の日」記念事業の一つとして開催した、「日本プロ音楽録音賞」の授賞式が盛大に行われました。

第一回「日本プロ 音楽録音賞」決定

(社)日本オーディオ協会、(社)日本音楽スタジオ協会、及び当協会共催による第一回「日本プロ音楽録音賞」(制定委員会委員長・中島平太郎日本オーディオ協会会長)の受賞者が決定し、昨年12月6日開催の「音の日」制定記念パーティーの会場で、表彰式が行われました。

これは、音作りを通じて、音楽、オーディオ文化の向上に努めるレコーディングエンジニアの感性と技術にスポットを当て、音楽制作ならびに録音に対する一般ユーザーの認識を高めるとともに、音楽、オーディオ産業のソフト分野における一層の質の向上及び、レコーディングエンジニアの地位の確立を目指すことを目的に、「音の日」の事業の一環として設けられたものです。

その第一回として、平成5年10月1日から6年9月30日までに制作された音楽作品を対象に日本全国のプロ録音エンジニアから作品の募集を行い、それらの作品について審査委

員会及び同賞制定委員会による厳正な審査の結果、次の方々が本年の受賞者に決定いたしました。

「最優秀録音賞」

『ドヴォルザーク交響曲第9番』
ヴァーツラフ・ノイマン指揮/チェ

コ・フィルハーモニー管弦楽団・日本コロムビア株式会社

(後藤博/井口啓三/国寄裕/保坂弘幸)

「優秀録音賞」

『アルパ私のころ』から「鐘つき鳥」ルシア塩満・ソニー・ミュージックエンタテインメント

(鈴木浩二/曾我直美)

『Season's Greetings』から「My Gift To You」山下達郎・株式会社イーストウエスト・ジャパン
(吉田保/佐藤康夫)

『新日本紀行・富田勲の音楽』から「新平家物語」大友直人指揮/東京交響楽団・B M G ビクター株式会社
(内沼映二/原田光晴/増田敏弘/金井光晴)

「放送録音特別賞」
『ドビュッシィ牧神の午後への前奏曲』シャルル・テウトワ指揮/フランス国立管弦楽団・NHK FM
(石崎恒雄/青山哲也/畠山祐里)

日本レコード協会ヒットチャートデータによるランキング

平成6年12月度(11月21日~12月20日)のヒットチャートデータがまとまりました。これによる各ランクの5位までは次のとおりです。

順位	タイトル	アーティスト	発売元
■邦楽・洋楽合同シングル 5位			
1.	MOTEL	B'z	(BM)
2.	everybody goes ~秩序のない現代にドロップキック~	MR. CHILDREN	(TF)
3.	Tomorrow never knows	MR. CHILDREN	(TF)
4.	恋人たちのクリスマス	マライア・キャリー	(SME)
5.	幸せをつかみたい	広瀬香美	(V)
■洋楽シングル 5位			
1.	恋人たちのクリスマス	マライア・キャリー	(SME)
2.	ネコの聖しこの夜	ジングルキャッツ	(FUN)
3.	ラスト・クリスマス	ワム	(SME)
4.	オールウェイズ・ラヴ・ユー	TAKE 6	(WJ)
5.	クリスマス・タイム	ブライアン・アダムス	(PO)
■邦楽・洋楽合同アルバム 5位			
1.	THE DANCING SUN	松任谷由実	(TO)
2.	メリー・クリスマス	マライア・キャリー	(SME)
3.	いつかの少年	長渕 剛	(TO)
4.	Phi II	米米 CLUB	(SME)
5.	SINGLES	中西圭三	(PI)
■クラシックアルバム 5位			
1.	大江 光ふたたび	海老彰子 (P), 小泉 浩 (FI), 加藤知子 (Vn)	(C)
2.	大江 光の音楽	海老彰子 (P), 小泉 浩 (FI)	(C)
3.	世界3大テノール'94夢の競演	カレーラス、ドミンゴ、バヴァロツディ	(WJ)
4.	グレゴリアン・チャント (クリスマス・スペシャル)	フランシスコ・ララ指揮/シロス修道院合唱団	(TO)
5.	ヴァイオリンの夜	古澤 巖 (Vn)	(SME)
■洋楽アルバム 5位			
1.	メリー・クリスマス	マライア・キャリー	(SME)
2.	ザ・ビートルズ・ライブ!!	アット・ザ・BBC	ビートルズ (TO)
3.	MAX	マライア・キャリー 他	(SME)
4.	NOW 2	ザ・ローリング・ストーンズ 他	(TO)
5.	クロス・ロード	ボン・ジョヴィ	(PH)

※日本コロムビア(C)/ビクターエンタテインメント(V)/キングレコード(K)/テイチク(TI)/ホリドール(PO)/東芝EMI(TO)/日本クラウン(CR)/徳間ジャパン(TJC)/ソニー・ミュージックエンタテインメント(SME)/日本フォノグラム(PH)/ポニーキャニオン(PC)/ワーナーミュージック・ジャパン(WJ)/アポロン(AP)/フォーライフレコード(FL)/バップ(VAP)/トランスレコード(TA)/ポリスター(PS)/アルファレコード(AL)/キティエンタープライズ(KT)/ファンハウス(FUN)/イーストウエスト・ジャパン(EW)/BMGビクター(BV)/NECAベニュー(NA)/WEAミュージック(WEA)/メルダック(ME)/ハミングバード(HB)/TDKコア(TDK)/メディアモラス(MR)/AXEC(AX)/トイズ・ファクトリー・レコード(TF)/バンダイ(BC)/パイオニアLDC(PI)/MCAビクター(MV)/ロッキットレコード(RO)/エイベックス・ディー・ディー(AV)/ピーエム(BJ)/ザインレコード(ZA)/BMGルームス(BM)/ビーグラム(BG)/ワン・アップ・ミュージック(EP)

12月度「ゴールド・アルバム」他認定作品

12月度のゴールド・アルバム他が次のとおり認定されました。

■アルバム(30作品)

●2ミリオン

Atomic Heart/MR. CHILDREN (TF)
「ホディガード」オリジナル・サウンドトラック
/ノットニー・ヒューストン他 (BV)
●クワドラプル・プラチナ
THE DANCING SUN/松任谷由実 (TO)
●トリプル・プラチナ
永遠の夢に向かって/大黒摩季 (BG)
MAX/マライア・キャリー他 (SME)
NOW 2
/ザ・ローリング・ストーンズ 他 (TO)

●ミリオン

PHARMACY/槇原敬之 (WJ)
●ダブル・プラチナ
Melodies & Memories /チューブ (SME)
●プラチナ
いつかの少年/長渕 剛 (TO)
Phi II/米米 CLUB (SME)
COLORS/久宝留理子 (SME)
Versus/MR. CHILDREN (TF)
Kind of Love/MR. CHILDREN (TF)
She・See・Sea/鈴木雅之 (SME)
SINGLES/中西圭三 (PI)
ザ・ビートルズ・ライブ!! アット・ザ・BBC
/ザ・ビートルズ (TO)

●ゴールド

colored/NOKKO (SME)
SUPER BEST BOX
/CHAGE & ASKA (PC)
anytime/小泉今日子 (V)
Harvest/広瀬香美 (V)
Orange Sunshine
/JUDY AND MARY (SME)
幸福の場所~しあわせのありか~
/谷村有美 (SME)
REBECCA SINGLES/レベッカ (SME)
PRISM/谷村有美 (SME)
ザ・ベスト・オブ・シャーデー
/シャーデー (EW)
レゲエ・ゲンサー
/インナー・サークル (EW)
ベスト・オブ・イーグルス/イーグルス (WJ)
NO MORE TEARS
/オジー・オズボーン (SME)
ウィー・アー・シャンパー/シャンパー (TO)
ユース・ア・ネイジ・メガデス (TO)

■シングル(17作品)

●2ミリオン

Tomorrow never knows
/MR. CHILDREN (TF)
●クワドラプル・プラチナ
恋しさと せつなさと 心強さと
/篠原涼子 with t. komuro (SME)
恋人たちのクリスマス
/マライア・キャリー (SME)

●ミリオン

MOTEL/B'z (BM)
IT'S ONLY LOVE/福山雅治 (BV)
●ダブル・プラチナ
春よ、来い/松任谷由実 (TO)
●プラチナ
everybody goes~秩序のない現代にドロップ
キック/MR. CHILDREN (TF)
幸せをつかみたい/広瀬香美 (V)

●ゴールド

HERO/中山美穂 (K)
Ice Rain/工藤静香 (PC)
花のワルツ/藤あや子 (SME)
ZA-KU-ZA-KU Digame SUNSHINE
MOONlight/久保田利伸 (SME)
スベアキ〜愛されてもしょうがない〜
/藤谷美和子 (C)
DRIVE ME CRAZY/山下久美子 (TO)
TEAR'S LIBERATION/access (FUN)
東京/やきたかじん (PS)
ゆずれない願い/あの日の二人はもういない
/田村直美 (PO)

世界の話題

モスクワ

■IFPI事務所開設

IFPIは、モスクワ事務所の開設とロシアレコード協会(RPA)の設立を発表しました。昨年10月に登録されたRPAは、同国の大手18のレコード会社から構成され、IFPIは、RPAをナショナル・グループとして認知する意向です。

モスクワ事務所は、昨年11月、正式に開設されました。IFPIは、1933年設立の国際非営利団体で、71か国に1千以上の会員社を擁し、41か国にナショナル・グループを有しています。

同国政府がベルヌ条約とジュネーブ条約への加入と、'93年の著作権と隣接権法新法の施行を受け、事務所開設が決定されました。

同国音楽市場は、伝統的に大きいにも拘らず、80~90%という極端に高い海賊版に、発展の潜在可能性は打ち消されています。

同事務所の主な目的は、RPAと共に同地の音楽産業を援助し、健全な音楽市場を作り、同国の文化発展に寄与することです。

(IFPIプレス '94/12/5)

ベトナム

■著作権保護確立

ベトナム国民会議で、昨年12月8日、著作権保護法が通過しました。本法は、知的財産の全てを扱いますが、現段階では国内製造或

いは国内発行の物しか保護しません。しかし、年内か来年始めに予定される同国のベルヌ条約加入に伴い、国内・外の財産を保護するようになります。

政府は、IFPIのガイド・ラインを受入れ、海賊版の破棄を始めます。

同国のレコード業界には、音楽を管轄する公式部門がなく、実態を把握することはできませんが、アナリストによれば、海賊版が98%を占めるものの、売上規模は1千万~3千万米ドルと予測しています。

文化省は、'93年に著作権保護の国内事務所を開設しましたが、それは単なる助言団体として機能してきました。同事務所は、以下のように発表しました。「ベトナムが知的財産において国際的共同体の適正メンバーになるには、著作権法が不可欠である。」

しかし、あるレコード会社の役員は、「私はサイゴンにいたが、10年前のバンコック同様、全てのテープが海賊版で、新法に即効性があるとは思わない。」と言っています。

過去3年間の莫大な外国投資と経済成長にも拘らず、同国民の一人当たりの年間収入は、220米ドルにしかありません。合法的なカセットの価格が1米ドルとしても大きな支出になります。CDは、中国のアーティストの海賊版(2米ドル)以外は、殆ど知られていません。

(ビルボード '95/1/7)

タイ

■著作権法施行

同国では今年2月、最初の著作権法が施行されます。

本法は、海賊版に速効性があるというよりは、米国を宥めるものですが、ソフト産業に歓迎されました。また、これにより、米国通商代表部は、タイを優先監視国リストから外しました。

本法は、世界標準に合わせるため、タイ政府と国際団体との2年間に亘る交渉の結果完成したものです。この1年間、同国はカセット、ビデオ、コンピューター・ソフトウェアの海賊業者の取締を強めており、その中でこの改正が提案されました。同政府は、新法執行のため、知的財産部を新設しました。レコード会社役員によると、同国内の海賊版はかなり減ったとのことです。

IFPIの支局は、「現在、外国レパートリーの30%は海賊版だが、2年前は95%だった。」と報告しています。また、商務省の見解では海賊版の割合は低いが、アナリストのそれは、50%に上ります。

新法は、告訴の合理化と、迅速に罰を科すことを可能にしました。レコード会社幹部の殆どは、新法の効果を言及するのは早計だが、年内に海賊版は、20%かそれ以下になると感じています。

(ビルボード '94/12/3)

会議メモ (主なもの)

(1月1日~1月31日)

- | | | | | | |
|------|---------------|------|---------------|------|---------------|
| 1・10 | レコード制作基準倫理委員会 | 1・13 | G D大賞申請説明会 | 1・24 | 法制委員会 |
| 1・11 | 著作権部会 | 1・13 | T S Cエキスパート会議 | 1・24 | 二次使用料委員会 |
| 1・11 | 情報システム部会 | 1・18 | 業務委員会 | 1・25 | 洋楽宣伝部会 |
| 1・12 | 洋楽部会 | 1・18 | 邦楽制作部会 | 1・25 | 情報システム部会 |
| 1・12 | 営業部会 | 1・19 | 予算委員会 | 1・26 | ビデオ部会 |
| | | 1・19 | 経理部会幹事会 | 1・27 | 理事会 |
| | | 1・20 | G D大賞幹事会 | 1・27 | G D大賞審査部会 |
| | | 1・23 | 営業部会 | 1・27 | T S Cエキスパート会議 |
| | | 1・24 | 宣伝部会 | 1・31 | G D大賞審査部会 |
| | | 1・24 | 音楽ギフトカード委員会 | | |

1994年12月レコード生産実績

数量：千枚・巻
単位
金額：百万円

表1. オーディオディスク

	12月実績						1994年(1月~12月)累計						
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比	
C	邦洋計	12,661	35	118	7,943	18	107	134,470	35	89	86,455	18	90
	邦洋計	874	2	423	367	1	289	3,801	1	146	1,916	0	123
	邦洋計	13,535	38	123	8,311	18	110	138,271	36	90	88,371	18	90
D	邦洋計	12,980	36	95	22,795	50	94	152,568	40	101	268,125	54	100
	邦洋計	9,411	26	120	14,068	31	124	89,131	23	116	135,746	28	117
	邦洋計	22,391	62	104	36,863	81	104	241,699	64	106	403,870	82	106
アナログ	邦洋計	25,640	71	105	30,738	68	97	287,038	75	95	354,579	72	98
	邦洋計	10,285	29	128	14,435	32	126	92,931	24	117	137,662	28	117
	邦洋計	35,926	100	111	45,174	100	105	379,970	100	100	492,241	100	102
合計	邦洋計	30	0	323	32	0	237	239	0	156	346	0	236
	邦洋計	68	0	92	141	0	94	381	0	55	735	0	53
	邦洋計	98	0	118	173	0	105	620	0	74	1,081	0	71
合計	邦洋計	25,670	71	105	30,770	68	97	287,277	75	95	354,925	72	98
	邦洋計	10,353	29	128	14,576	32	126	93,312	25	116	138,397	28	117
	邦洋計	36,023	100	111	45,346	100	105	380,590	100	100	493,322	100	102

表2. オーディオテープ

	12月実績						1994年(1月~12月)累計						
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比	
カセット	邦洋計	2,974	99	82	2,453	99	80	29,450	99	85	25,438	98	82
	邦洋計	20	1	53	27	1	50	410	1	73	486	2	66
	邦洋計	2,994	100	82	2,480	100	80	29,860	100	85	25,924	100	82
カートリッジ	邦洋計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	邦洋計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	邦洋計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	邦洋計	2,974	99	82	2,453	99	80	29,450	99	85	25,438	98	82
	邦洋計	20	1	53	27	1	50	410	1	73	486	2	66
	邦洋計	2,994	100	82	2,480	100	80	29,860	100	85	25,924	100	82

表3. 複合型CD (CDグラフィックス、CD-I、CD-ROMなど)

	12月実績						1994年(1月~12月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
邦盤	3,549	100	230	2,285	99	118	26,329	100	278	22,579	99	240
洋盤	15	0	5,034	30	1	3,918	98	0	108	157	1	425
合計	3,563	100	231	2,315	100	120	26,427	100	276	22,736	100	240

表4. ビデオレコード

	12月実績						1994年(1月~12月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
ディスク	1,753	42	108	5,187	35	97	17,220	47	96	52,177	40	86
テープ	2,416	58	166	9,681	65	153	19,778	53	116	77,297	60	106
合計	4,168	100	135	14,868	100	127	36,998	100	106	129,474	100	97

表5. オーディオ/ビデオ/AV複合型レコード合計

	12月実績						1994年(1月~12月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ	39,018	83	108	47,826	74	103	410,450	87	98	519,246	77	101
複合型CD	3,563	8	231	2,315	4	120	26,427	6	276	22,736	3	240
ビデオ	4,168	9	135	14,868	23	127	36,998	8	106	129,474	19	97
合計	46,749	100	115	65,009	100	108	473,875	100	102	671,456	100	102

備考 1. 本年実績は、会員会社「27社」の集計である。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。

1994年1～12月新譜数

1994年(平成6年)の1～12月に発売された新譜数を集計し、その構成比率を図示しました。

図1 オーディオレコード新譜数構成比

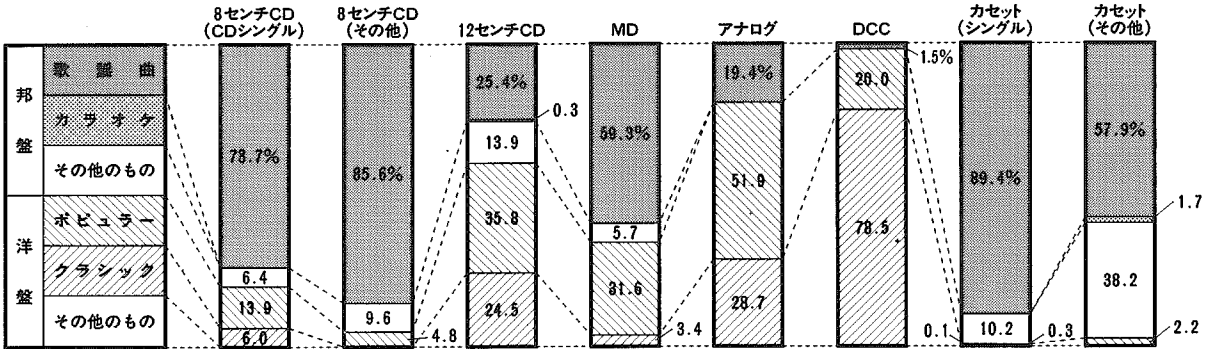


表1 オーディオレコード/複合型レコード(CD-G・CD-Iなど)新譜数

単位:枚(巻)

種 類	8センチCD		12センチCD	M	D	アナログ	DCC	カセット		複合型		合 計
	CDシングル	その他					シングル	その他	CD-G	その他		
邦 盤	演 歌	230	421	690	3	0	0	585	578	19	0	2,526
	ポ ッ プ ス 歌 謡 曲	285	202	695	6	8	0	81	121	5	1	1,404
	ニ ュ ー ミ ュ ー ジ ッ ク	811	293	2,538	96	42	1	46	80	32	3	3,942
	小 計	1,326	916	3,923	105	50	1	712	779	56	4	7,872
洋 盤	軽 音 楽	6	3	545	4	0	0	4	92	0	1	655
	民 謡 ・ 純 邦 楽	6	17	140	0	0	0	50	155	0	0	368
	教 育 ・ 教 材 ・ 童 謡 ・ 童 話	4	19	216	0	0	0	15	147	20	3	424
	ア ニ メ ー シ ョ ン	65	59	642	2	0	0	10	77	0	3	858
	ク ラ シ ッ ク	2	0	384	4	0	0	0	11	0	0	401
	カ ラ オ ケ	0	0	50	0	0	0	0	23	440	407	920
	そ の 他	32	5	218	0	0	0	2	32	0	47	336
邦 盤 計	1,441 (108)	1,019 (112)	6,118 (107)	115 (84)	50 (46)	1	793 (101)	1,316 (86)	516 (637)	465 (-)	11,834 (111)	
洋 盤	ロ ッ ク ・ デ ィ ス コ	149	39	2,917	42	4	4	0	4	1	1	3,161
	ジ ャ ズ ・ フ ェ ー ジ ョ ン	11	3	1,372	2	109	9	0	3	0	0	1,509
	ポ ピ ュ ラ ー ソ ン グ	87	4	741	4	20	0	0	13	0	0	869
	映 画 音 楽	0	2	237	8	1	0	1	5	0	0	254
	そ の 他	3	3	261	0	0	0	0	5	0	0	272
小 計	250	51	5,528	56	134	13	1	30	1	1	6,065	
ク ラ シ ッ ク	107	0	3,772	6	74	51	2	0	15	0	4,027	
そ の 他	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	5	
洋 盤 計	357 (120)	51 (268)	9,302 (93)	62 (109)	208 (18)	64 (31)	3 (300)	30 (83)	16 (-)	4 (-)	10,097 (93)	
合 計	1,798 (110)	1,070 (115)	15,420 (98)	177 (91)	258 (58)	65 (25)	796 (101)	1,346 (86)	532 (657)	469 (-)	21,931 (102)	

備考: ()内は対前年比。

図2 ビデオレコード新譜数構成比

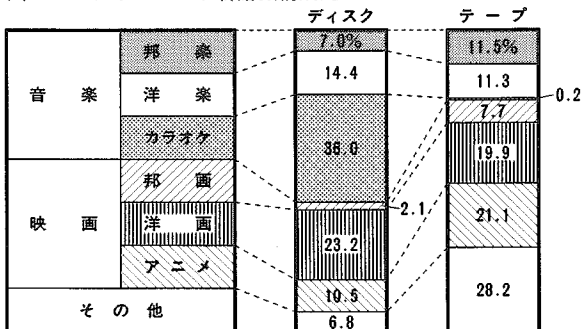


表2 ビデオレコード新譜数

単位:枚(巻)

種 類	ディスク	テープ	合 計
音 楽			
邦 楽	169	316	485
洋 楽	350	310	660
カラオケ	872	5	877
映 画			
邦 画	51	212	263
洋 画	563	547	1,110
ア ニ メ	254	580	834
そ の 他	166	775	941
計	2,425 (87)	2,745 (88)	5,170 (88)

備考: ()内は対前年比。